

既存ダム等の効果 淀川水系 布目ダム

○布目ダムにおいて、降雨予測や下流状況を踏まえ、特別防災操作※（空き容量確保・ピーク流量低減）を実施。

（空き容量確保）

- ・10月22日11時時点で総雨量が460mm以上に達するとの予測となり、事前放流（空き容量確保）を実施、ダム貯水位を下げ、約60万m³の空き容量を確保。

（ピーク流量低減）

- ・その後、下流の布目川沿川（奈良市）で布目川の水位が上昇し浸水被害が発生することが想定されたため、今後の降雨予測から放流量を低減させてもダム水位が洪水時最高水位を越えないことを確認し、**下流の被害 軽減のため、特別にダムの放流量を低減。**
- ・さらに、降雨予測で降雨のピークと降り終わりが確認でき、ダム水位も洪水時最高水位を超えないと判断されたことから、**木津川の下流や淀川本川の水位低下のため、特別にダムの放流量の低減を更に実施。**

（効果）

- ・興ヶ原地点（奈良市）で、約1.2m水位低減（本則操作：約1.0m低減、特別防災操作：約0.2m低減）
- ・一連の操作により、**ダムが無かった場合と比べ浸水被害を回避。**

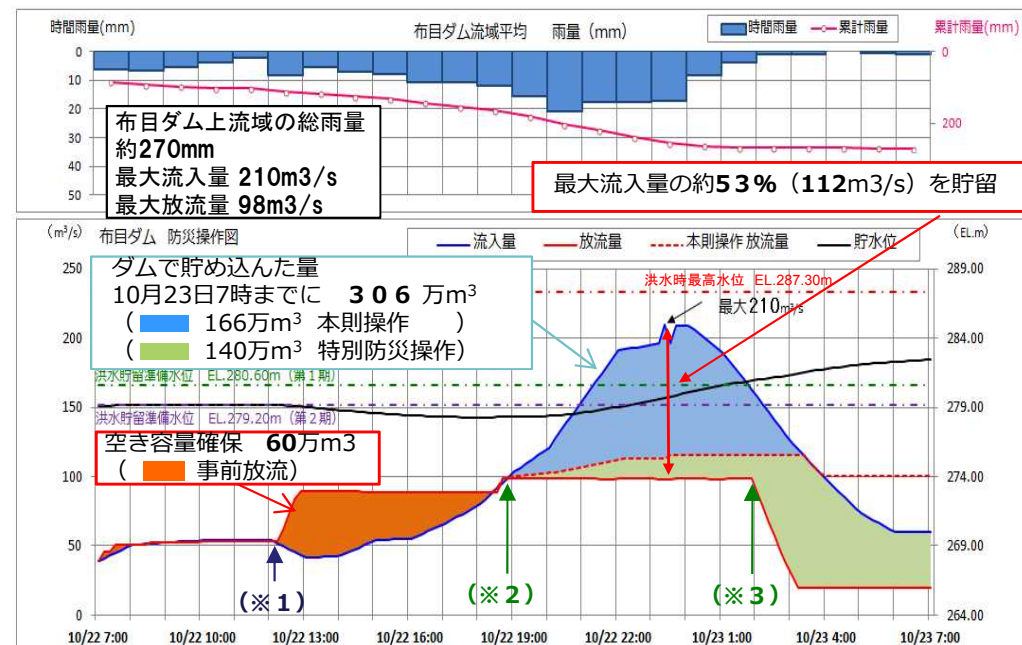
布目ダムと興ヶ原地点の位置図



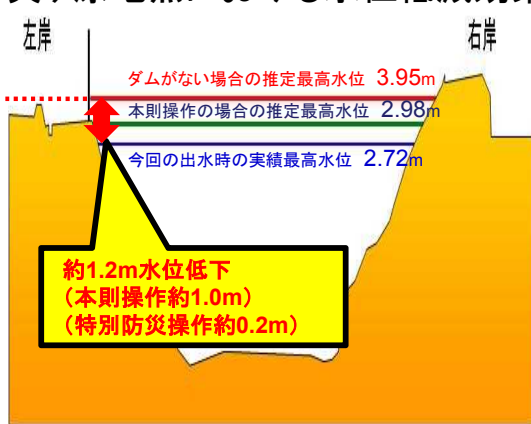
ダム貯留状況写真



布目ダムの防災操作図



興ヶ原地点における水位低減効果



※特別防災操作
 ・降雨予測を踏まえて空き容量確保をしたり、降雨予測や下流状況を踏まえ、ダム容量の範囲内で洪水調節可能を確認のうえピーク流量の低減を行う操作。
 ・本操作は上記の条件を満たす時にできる特別な操作であり必ず実施出来るものではありません。

(※1) 事前放流開始 (特別防災操作)
 (流入量より放流量を多くし、更なる空き容量を確保)